

福田寺は下久世しもくぜにあり、本尊は地藏尊ちざうそんにして、行基ぎやうきの作なり。摩耶夫人まやふじんの像は、もろこしにて世の人安産の為に、  
梁武帝りやうむていみづから作り給ふ、赤梅檀しやくせんたんの尊像なり。〔弘法大師こうぼう入唐の時乞得て帰朝し、撰州摩耶山まや天上寺に安置す、後に此  
寺にうつす〕龍神像りうじんのざうは俊恵法師しゆんゑ雨乞の法を修す。〔早の年雨を祈るに靈驗あり〕板井清水いたみのしみづ〔此寺の良にあり、むかしは  
福田寺ふくだんじの封境なるよし。俊恵法師しゆんゑ此ところに閑居す。俊恵は宇多天皇うだてんわう六代の苗裔べうえいとしより俊頼の子なり、才智世に誉ありて、か  
ぞいるともに敷島しきしまの道に達せり。されば世の榮は宿因しゆくいん浅く脱塵だつじんのこゝろ起りて此寺に住しが、思へば樹の陰だにもしば  
しはやどらぬといへば、錐をたつる地をもものぞまず、風とすぎ雲とつらなりて行衛ぎやうゑもしらずなりぬ。年経て又こゝに来  
て、あらたる宿をながむれば、かやが軒端のきりの虫のこゑ、さゝの小篠の露ふかみ、昼さへ光りうすければ、清水に月もさ  
えず、あはれさいとゞましければ、

古郷の板井の清水みくさびて月さへすまらずなりにける哉

俊恵法師